

会 議 録 (案)

1 名 称	平成27年度第1回北九州市子ども・子育て会議
2 議 題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 会長・副会長の選任 ○ 平成26年度「元気発進！子どもプラン」評価結果について ○ 「元気発進！子どもプラン（第2次計画）」に基づく主な取り組みについて ○ [報告] 北九州市子ども・子育て会議認定こども園・確認部会委員の改選について
3 開催日時	平成27年7月17日（金）14：00～16：00
4 開催場所	北九州市生涯学習総合センター 大ホール （小倉北区大門1-6-43）
5 出席した者の 氏名	出席委員（12名）（◎…会長、○…副会長）（敬称略・50音順） 安藤 由起子 大久保 大助 北野 久美 黒木 八恵子 権頭 喜美恵 白土 友恵 ◎田中 信利 田中 眞弓 中村 雄美子 錦戸 千晶 村上 順滋 ○村上 太郎
6 議事の概要	次ページのとおり
7 発言内容	次ページのとおり
8 その他	傍聴者なし
9 問い合わせ先	子ども家庭局 総務企画課 企画係 （担当）村上、立石 電話番号 093-582-2280

会 議 録 (案)

6 議事の概要

- 会長に田中信利委員、副会長に村上太郎委員を選任した。
- 平成26年度「元気発進！子どもプラン」評価結果について資料2に基づき事務局より説明し、質疑・意見交換を行った。
- 「元気発進！子どもプラン（第2次計画）」に基づく主な取り組みについて資料3に基づき事務局より説明し、質疑・意見交換を行った。
- 北九州市子ども・子育て会議認定こども園・確認部会委員の改選について資料4に基づき事務局より説明した。

7 発言内容

発言者	内 容
	<p>【開会】14:00</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 会議成立の報告 ○ 子ども家庭局長挨拶 ○ 委員の紹介 ○ 市側出席者の紹介 ○ 会長・副会長の選出
委員	<p>【議事】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(1) 平成26年度「元気発進！子どもプラン」評価結果（政策分野1及び2）について、資料2に基づき事務局より説明</p> </div> <p>17ページの「4 母子保健」の中の指標に、「親子遊び教室」の開催数というのがでてきている。親子あそび教室がどういった事業なのかというのが、このままだとよく分からない。18ページの③番について、例えば私が客観的にこの報告書をいただいたとして、この指標は何だろうというふうに多分思うと思う。③番の発達の気になる子どもの早期発見、早期支援の中に、一文、少しちらっと入れていただくと、この指標の意味が分かるかなと感じました。</p>
事務局	<p>ただ今の意見を踏まえ、そのように修正したいと思う。</p>
委員	<p>私は、ただの主婦なので、すごく素人意見になってしまうかもしれないが、逆にそういった一市民としての意見を言えたらいいかなと思い発言させてもらう。そもそもの評価の仕方だが、アンケートで評価をしているとあるが、有効回収数がすごく少ないと思う。これをもとに評価を決めてしまっているのかというのが、まず率直な意見である。例えば、家庭で忙しくて余裕がないお母さんなどは、アンケートを書く暇ないと思う。そういったお母さんからの意見を取り入れられるような場を、もっともっとつくっていくことが、本当の声を</p>

会 議 録 (案)

事務局	<p>聞くことではないかと、私は思う。</p> <p>これまで、前回のプランの中で、ずっと 800 件のアンケートをやってきている。ご指摘のとおり、少し回収率が低い状態である。今まさに、今年の4月から、新しい計画が始まっておりまして、そういった中でこういったやり方が一番いいのかというのを、併せて検討していきたいと思っている。</p>
会長	<p>今、委員が言った発言は、これまで会議で出てきた問題で、結局時間的余裕のある保護者は付けられるけれども、やはり忙しい保護者は付けられない。そのバイアスというのは当然あるのだと。そのバイアスということ、当然念頭に置きながら、施策なども考えていかないといけないので、一応、そういうものは承知している。</p> <p>回収率を上げること自体が目的よりも、そのデータをどうやって見とってもらえるかというところ、あとアンケート調査以外の別の実態の把握の仕方もあるだろうということで、そういうところを検討してもらいたいと、常々言っている。</p>
委員	<p>私、昨年も確かお尋ねしたと思うが、こちらが各事業の、事業の評価をされているところの活動状況が、BとかAとかCとか付いているが、今回、「子育ての悩みや不安」が「B」から「A」に上がったと報告があった。さて、こちらのファイルのほうを見ると、活動状況を見ると「A」が増えたのかなと思ったら、やはり「B」が多かったりする。そこらを、確か昨年度も尋ねたと思うが、では、何をもち「A」とされたのかが、いま一つこの報告書では、まだ分かりづらいついかなというふうに感じている。</p> <p>あともう一つは、こちらの個別の事業評価票の 32 ページに、「総合療育センター等の専門スタッフの派遣」という事業がある。活動指標の中の2段目、保育所等訪問支援事業の実施件数で、前年度の実績が 183 件、目標が増加という目標だった。それに対して実績が 623 件、すごく増えている。すごく増えているけれども、活動の状況は「順調」という内部評価となっている。</p> <p>私は、これが本当に負担なくというか、事業が順調に進んだのかなと、とても疑問に思っていて、例えば事業によっては、本当に必要数が予想していたよりも増加した場合、安全にその事業が行われたのかどうか、スタッフの数は適切だったのかどうかということがとても不安である。こういう事業が、多分今、私が一例を挙げただけですけれども、多分、就学相談だったり発達の問題のことだったりというのは、きっと増えているのではないのかなと思う。</p> <p>だから、そういうときの評価を、すごく増えているというときは、例えば施設管理とかで、来場者が増えたということであれば、「いっぱい来てくれて良かった、順調」ということなのかもしれないが、これは訪問とかで、先生方が</p>

会 議 録 (案)

事務局	<p>相談に出向かれるということだと思うのだが、本当にこの件数で大丈夫だったのかと思うので、事業によってはこの評価の仕方というのを、どう表現したらいいのか疑問を感じた。</p> <p>まず最初の「子育ての悩みや不安」への対応が、何をもち増えたのかというご質問については、24 ページのところの総合的な大きな枠の中のところで少し書かせてもらっているが、当初の計画から見て、子育てが地域の人に支えられていると感じる人の割合が、前年度と比べて増加しているということと、あとは計画当初に比べて8ポイント近く上昇したということ。また、悩みや不安を感じる人の割合につきましても就学前児童、小学生の保護者ともに前年度に比べて減少、特に就学前児童保護者の割合は、計画当初に比べまして10ポイント以上減少しているということで、そういったことをもろもろ総合的に判断して、26年度の評価は「A」ということにさせていただいた。</p>
事務局	<p>先ほど指摘があった保育所等訪問支援事業の件数の件で、少し補足をさせてもらいたい。事業評価表を見て、件数については発言されたと思うが、保育所等訪問支援は、児童発達支援センター「ひまわり学園」で、保育所等に出向いての支援を行うもので、これは利用者の方からの申請を受けて出張を行うという形で、サービスを提供しているものである。各施設にはそういう相談支援の担当のスタッフを配置して、出張での相談対応を行っている。体制を整えたいので、それぞれの申請に応じて訪問支援を行っているので、申請に対しての対応という形では、円滑に進んでいるという一定の評価をしている。</p> <p>もちろん、発達の気になるお子さん、そういったご心配をされる方、全体として関心も含めて非常に高まってきているというところは実感している。市全体の体制の中で、もっとそういった目線は強めていきたいと考えている。</p>
委員	<p>では、目標はどのくらいにすればいいのか。どのくらいだったら先生方のオーバーワークにならずにいい件数なのかということが、私にとっては分からない。その辺の内容を見定めての目標が、増加だと、どこまでが増加なのかというふうに思ってしまう。もし来年、27年度評価の時は、先生方の体制と、どれくらいまでの相談だったら受けられるかというのを、もう少し工夫してもらえると、多分、私もすんなりと読み飛ばせたと思うので、対応していただきたい。</p>
事務局	<p>今の、委員ご指摘があったうちの1つは、多分、なぜなのかと、何で「B」なのかということで、恐らく評価基準に関わる話だろうと思っている。この子どもプランは、私も4月から担当させていただいていますけれども、非常にウエイトを付けるにしてもなかなか難しい、いわゆる限界があるということ</p>

会 議 録 (案)

	<p>で、委員のご指摘のところは、多分定量的な評価というのがどこまでできるかということだろうと思っている。これは、全般貫いておりますのは、多分定性的な評価、感覚であるとか、いいところを見つけてするとかいうところであろうと思う。定量的な評価の導入の可能性については、私どもも少し研究していきたいと思う。なかなか難しい部分はあろうかと思う。</p>
委員	<p>いつも数で評価したいと思っているわけではないが、多分、先生たちが対応できる件数というのはある程度あるのではないのかなと思っていたので、ここはそういうふうに発言させてもらった。</p>
委員	<p>9ページの保育サービスについてですけれども、10月の待機児童がすごく増えている。そして、満足度のほうも27年度が前年度に比べて保育所に対するものが下がっていたりするのに、ここの評価が「B」となっているのにすごく疑問を感じた。保育サービスも、この場合は多分正社員で働かれているお母様方がメインになっていると思う。実際はもっといろいろな形での保育サービスを市民は求めていると思うので、そういった、ここに載っていない部分も含めて、もう少し厳しく評価をしてもらいたい。</p>
事務局	<p>我々もさまざまな保育サービスの提供ということを研究させてもらっている。委員ご指摘のとおり、10月から待機児童が増えるというのがここ数年の傾向である。市長公約にもあるように、平成29年度中に待機児童の解消を目指すということで、さまざまな取り組みを、今後はやっていきたいと思っている。また、現場の保護者の方の意見を率直に聞きながら、我々も待機児童の解消に取り組んでまいりたい。</p>
委員	<p>14ページの放課後児童クラブの件について質問だが、アンケートが放課後児童クラブに対しての満足度ということになっているが、これは利用される保護者の方が対象となっている。児童クラブを利用しているのは子どもなので、子どもの話というのはどこなのかなというのを思った。子どもの話は、子どもの話で置いておいていいのかということところは、結構感じるところなので、分からないことは分からないかもしれないのですが、全然こういうものに、子どもの意見が出てこなくて、大人の目線だけでどんどん進んでいくのはどうなのかと非常に思う。もう1つは、指導員の方の意見というのは、どういうふうに反映されているのか。例えば、ここで決まった話は全部指導員の方に「するんだ」というふうにどんどん押し込まれていくと、逆に指導員が「たまったもんじゃない」という、現場の声も当然あるのではないかと。現場の実情を知っているのは、多分現場の人ではないかと思う。何かそこが少し、一番メインに活動している指導員の方と子どもの話というのがないなと思いながら、言わせてもら</p>

会 議 録 (案)

事務局	<p>った。何かそういう、今後について、現場の声を吸い上げるような評価の話なので、評価の仕組みというか、そういうものは検討の余地があるのかどうかというのをお聞きしたい。</p> <p>今のご意見は、この放課後児童クラブの部分に限らず、全体を通じたお話だと思うが、放課後児童クラブに関して言うと、指導員の意見というのは、私どもクラブの指導員との研修会とか、事務説明会というのを、年間、結構頻度を持って開催しているので、そういったところで指導員の意見というのは、私どもある程度把握できると考えている。ただ、子どもの意見というのは、直接、ヒアリングという形ではなかなかできないので、実際問題として子どもの意見というのは、アンケート形式でやるのは少し難しいかなと。そういった子どもの意見というのは、保護者の方を通じて、若干なりとも把握していきたいと考えている。</p>
委員	<p>私は、現場で12年前から指導員をさせてもらっている。北九州市内の小学校に全部学童ができた時に地域で採用された。幼稚園、保育所の経験はあるが、小学生というのは自分が剣道の指導をしている以外は、全く携わったことがなかった。また、これは地域の色があるので、自分たちで地域性を、その子どもたちにあったものを最初から指導員同士で話して、研修会に行ったりしたし、役所のほうに、発達障害のお子さんが増えてきているのもっと研修をしてもらいたいということは、常に言っている。やはり学童の指導員も人間ですから、それぞれ皆さんのチームワークがそろっていないといろいろな不平不満が生まれるし、それから、自分のことが一生懸命になって、なかなか子どもたち一人ひとりの気持ちに携わることができないので、委員の言われる、現場のほうで子どもたちの意見を吸い取られていないのではないかという思いもよく分かる。でも、指導員たちも一生懸命子どもたちと対話をしながら頑張っている。また私は、放課後児童クラブの重要性について、このプランはすごく挙げてもらっているので、現場の指導員はもっと勉強して、小学校の先生方にもいろいろとPRをさせてもらっている。また、学ぶこともたくさんさせていただいている。北九州市も、かなりたくさん指導員の不足もあって、いろいろ大変なところもいっぱいあるが、こういうプランの中で、自分磨きをしながら、子どもの気持ちも考えながらやっていきたい。</p>
事務局	<p>まず、策定について、先ほどのアンケートの話だが、実は前会議の時も子どもたちの声をという話があり、今、新しいプラン、今年からの分は事前のアンケート調査を小中高にさせていただいております。ただ、今回の評価は、この前の5年間のプランでございまして、それでやはり評価の継続性というものがある。その時は子ども抜きだったので。そういうことで、プラン最終年度とい</p>

会 議 録 (案)

<p style="text-align: center;">会長</p>	<p>うことで、皆様からいただいた意見は新しいプランに、会長を含めて、できるだけ活かさせていただいている。今回は5年前のプランということでご了承ください。それと、先ほど委員が言われたように、個別の事業評価票は、原課それぞれが評価している。今回の評価については、アンケート調査も含めてということで、原課としては「まだ足りない」けど、全体としては順調にやっている。大変順調というのは、悪いところは分かっているので、なかなか職員からすると付けづらい。ただ、アンケート評価的に上がってきたというのは、その意味で、プランとしてはA評価という形で付けさせていただいている。また、委員の保育の意見について、いろいろなアイデアとか評価指標がたくさんあるのはいいと思うが、前々回から今もそうなのだが、待機児童というのが大変な課題である。その部分について絞った評価で行っている。まだまだ成熟していないといえばそうだが、そういう意味で最低限のところをやっている。その意味で、評価的は、全体的に変化を感じた時、市民の方もかなり満足度が上がる。急に放課後児童クラブが増えた当初はすごく上がったが、それが、ちょっと当たり前になったり、入った時から当たり前となっている。そういう意味では、PRが重要だと思うし、今後、いろいろな声を聞きたいと思う。今回の評価については、前プランの形ということで、いろいろ意見はいただきたいと思うけれども、ご容赦ねがいたい。</p> <p>今、事務局からあったように、私も去年のこの会議の時に、5カ年の計画で進んでいるので、27年度までは行政側の、ある評価の仕方を一貫してやってもらいたい。次からは、アウトプットあるいはアウトカムも含めて、どういふふうに評価していくかは、新たにこの第2次計画からもう1回練り直してほしいということで、私のほうからも言っている。だから、繰り返しになるが、一応今回までは、過去5年間の推移ということもあり、一定の評価、同一基準の評価ということで。もちろん問題点もある。そういうところを今回踏まえて、次年度からもう少しその辺のところの評価も含めて、バージョンアップしていきたいという考えということで、ご認識いただきたい。</p>
<p style="text-align: center;">委員</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">(2) 平成26年度「元気発進！子どもプラン」評価結果（政策分野3及び4）について、資料2に基づき事務局より説明</p> </div> <p>先ほどの「青少年の健全育成」で、「不登校の児童生徒数」が減少しているというお話だったが、例えば、少年支援室に行っている生徒は、この数字の中でどうなっているのか。少年支援室に行っていたら学校に行っているというカウントであるのかどうかをまず聞きたい。それと、これは評価ということなので、今後の施策ということだろうが、不登校の原因の分析というところをもう</p>

会 議 録 (案)

事務局	<p>少し深めてもらい、そこに対する施策を今後考えていってほしい。</p> <p>9番目の「若者の自立支援」の報告の中で、「YELL」であったり「若者ワークプラザ」という話は出てくるが、「若者サポートステーション」の位置もかなり大きいと私は認識している、その質問をさせてもらおう。</p> <p>まず、不登校の子どもについて、少年支援室等に行っている子どもについては、不登校の中でもフリースクールであるとか少年支援室に行っている子どもについては、登校扱いということになるので、この中には入っていない。</p> <p>それから、不登校の原因の分析ということだが、不登校にはそれぞれ一人ひとりに、700人であれば700名の子どもがみな同じ原因で学校に来ていないということではない。非常に複雑多岐にわたっている。その不登校になった子どもに合わせた、例えば支援室に行かせるとか、あるいは、学校の保健室登校をさせるとか、そういう手だてについては、それぞれの子どもに応じた手だてをとるようにしている。</p>
事務局	<p>若者サポートステーションもYELLと同じく、不安を抱えている若者に対してサポートするものである。これは県の事業となっている。子どもプランの中では評価の対象とはならないと思うが、一緒にいろいろと連携してはやっているの、今後、どういう表記をしていくか、今回のプランでも工夫しながら考えていきたいと思う。</p> <p>一応、教育プランやそれに関する事業については、今度のプランでもそうなのだが、教育のプランでやっている部分の重きのところはそちらでやり、合同でやる部分は一緒にということで、すみ分けをして子どもに対するプランを作っている。ただ、新しいプランの進捗状況で、そういうところが全然見えてないというのはいけないと思うので、工夫させていただきたい。</p>
委員	<p>不登校のほうなのだが、先ほど、確かに個々それぞれ理由が違うので、そうだと思う。不登校になった原因はいろいろあると思うが、子ども自身とか家庭環境等とあるが、もう一方で、学校という環境の中で先生方の理解がどうなのかということも、ここの中に盛り込んでいただけたらと思う。</p>
委員	<p>事業評価票のほうで、課を責めているのではないが、よく分からないのが、例えば156ページの「野外教育等推進事業」とか、評価指標は青少年施設を使った利用者数とかになっている。全然意味が分からなくて、言いたいのは、これ自体を非難しているのではないの、例えば、事業と事業の評価というのは一致しているのかと。確かに、青少年施設に行って、少年自然の家に行くと山に登るというのは、想像はつくのだが、利用者数が推進事業の数になっているというのがよく分からないというか、推進しているのか、利用者を増やせ</p>

会 議 録 (案)

	<p>ばいいのか、全然意味が分からない。これだけではないのだが、あと、施設の改修事業でも、「人数が増えました」というのもよく分からない。トイレを綺麗にして人数が増えたら、それはトイレの効果かみたいな話なのかとか、いろいろ考えたのだが、指標と評価が合っていないのではないかと。それを積み上げた結果で、これは細かい話かもしれないが、そういうものが散見されるので、それが1つ、すごく気になったところである。もう1つ、もう少し言うと、154ページの「ボランティアの登録者数」というところで、私も少年自然の家のボランティアの出身なのだが、幽霊部員というのが入っていて、登録者数50名、活動者数8名というところでやってきた。そういう中で、登録者数が増えたからOKではなくて、これも先ほどの話ではないが、現場から言うと、「うーん、そうかな」と非常に思う。だから、評価の指標とやっていることがずれている気がする。こちらの施策の評価等は、すごくいろいろなところでいろいろな事業をしているのだなと、知らないこともたくさんあって勉強になるなと思うのだが、その1個1個の小さいところを見ていくと、この評価で本当にいいのかと少し疑問を感じる。</p>
会長	<p>どうですか。今の意見は、担当課が限定しているが、全般的な事業に関わることで、どのように目標数値で何を設定するかというふうなことなので、個別の事業に関してというよりも、何かそういうところでお願いしたい。</p>
事務局	<p>この個別の事業評価票については、いわゆる市のお金を使って、市の職員を使って、予算を取っている事業を書いている。それが値するかどうかというのも1つの評価項目だと思う。ただ、委員が言われたように、大きなマクロのところから、ミクロのところの部分を見てという話には、実際なっていることもあり得ると思う。評価の仕方、先ほど言われたが、人数だけでいいのかとか、そういう点は、今後の評価方法について、いろいろ先ほどから意見をもらっているので、できるところはなるべく委員の皆様の意見を取り入れていきたいと思う。できないときは、また弁解させてもらいたいと思う。</p> <p>何かで評価しなくてはいけないという認識のもと、ある事業を全部出しているようなものである。例えば、10万円の事業でも、お金が掛からなくても職員を使っている場合、それも市の事業という形にさせてもらっている。担当課のほうに十分伝えておく。</p>
委員	<p>担当課だけを責めているわけではなくて、私が見る分野がたまたま青少年分野だけだったので、そこを見ていたということで、気になった点であった。別に責めているわけではないので、そこだけご理解いただきたい。</p>
会長	<p>多分、今の話というのは全般的に関わる事柄なので、もちろん、このアウト</p>

会 議 録 (案)

委員	<p>カムのほうの指標自体も見直す必要があると思います。だから、そういう点で各委員のほうから、この目標数値ではなくて別の目標数値を設定したほうがよりアウトプットの指標として適正ではないかというふうなことは、あらゆる点でいろいろ指摘、あるいは提案いただきたいと思う。</p> <p>目標に関わることになってくると思うのですけれども、北九州市に限らずだと思うが、「8 青少年の健全育成」のところの、「いじめ認知件数」とあるが、まず、いじめの定義はどうなっているのかということが、すごく素朴な疑問である。そして、いじめをなくそうという目標を掲げていると思うのだが、早期発見・早期解決を目指そうと思うのであれば、いじめの認知件数は多いほうがいいのではないかとも思うし、どこからがいじめなのか。撲滅を目指すことで、いじめと言えなくなる環境が出てきてしまうのではないかという、北九州市に限らないとは思いますが、学校現場でのそういう子どもたちとか親御さんの目線に立った目標設定を、もう少し具体的に考えていかないと、ちょっと危ないのではないかと思う。</p>
事務局	<p>いじめは、発生件数とは言ってない。認知件数というふうに言っている。我々は、この二百何十件が北九州の全てのいじめであるとは考えていない。いわゆる、学校が発見できていないいじめもたくさんあるのだろうとは思っている。</p> <p>それで、いじめの定義なのだが、いじめの法律ができて、もう正式に日本全体で定義というのが決まっている。簡単に言うと、相手が嫌な思いをしたとかいうことがあれば、いじめということになる。定義的に言うと、「児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）」ということになっている。要するに、対象となった児童が心身の苦痛を感じているということなので、その子どもがある一定の人間関係が苦痛だというふうに感じれば、それはもういじめになるということ。それから、指摘のとおり、我々はこの「いじめの認知件数」の高という量だけで評価しているのではなくて、学校には、多くのいじめを早期に発見して早期に対応することが大事であるというふうに言っている。</p>
委員	<p>46ページからの、「ひとり親家庭の支援」のところだが、ひとり親家庭と一言で言いうが、母子家庭と父子家庭で、医療とか企業として関わっていく中で、とても環境とかで大きな差があるように感じられる。数字で調査したわけではないが、この評価の仕方が、ひとり親家庭ということで1つになって、評価の大きな枠の中の文章も、全体的な評価としてくくられているので、ここの評価の仕方としては、母子家庭、父子家庭を分けて考えていくほうがいいのではないかと思った。それと、もう1つ、ひきこもりの問題だが、これは今後の施策</p>

会 議 録 (案)

事務局	<p>の計画とかになってくるのかもしれないが、学校とか家庭とか地域支援プラス、今、本当にひきこもりの子どもたちとか不登校の子どもたちが、先ほど減っていると言っていたが、結果として出ているみたいである。実際、私の回りでは非常に増えている気がしており、共働き家庭の中で、子どもが不登校で家にいるので仕事に出て来られないとか、そういった問題が出てきている。「職場に連れて来なさい」とか、そういった支援などもさせてもらっているので、企業の支援等も必要になってくるのではないかと思う。</p> <p>ひとり親家庭の支援の指標の関係で、母子家庭、父子家庭を分けたほうがいいのではないかという提案についてだが、もちろんそういう部分もあろうかと思う。平成23年度に母子家庭等実態調査をしており、これは5年ごとにこういった調査をする。その際には、母子、父子、それぞれの課題について実態等を調査していきたいと思っている。今回、こちらに書いている指標は、今は母子も父子も、支援策というのはかなり一緒になってきておりまして、同じことを父子家庭にもすることができるといった状況になってきている。実際、できないのは母子寮に入ることくらいで、それ以外は、もうほとんど父子家庭のほうも同じように支援させてもらっている状況である。ひとり親家庭の課題というのは、こういったひとり親家庭の支援策を十分、伝えられていないというか、PRできていないというところが大きなところだと思う。今回、特にそういった就業支援、施策の利用数であるとか、母子・父子福祉センターの認知度であるとか、そういったものが、まず第一義的に必要だということで、今までの計画については、指標として掲げさせてもらった。</p>
委員	<p>私もひとり親家庭の支援のところだったのですけれども、このアンケートの結果というのは、この800名に送ったアンケートの中の、該当される方がこの「1」だったということでもいいのか。何か、あまりにも指標にするには、「1」とは何だろうと。有効回収数の中で1名しか該当の方がいなかったという結果である。ということは、これで本当に測れるのかなと、とても疑問なので、27年度以降は、大変申し訳ないのが、何か別の指標というか、一般にアンケート調査をするのではなくて、対象の方に向けたアンケートをするとかいうふうに変えていかないと、これでは全然意味がないようにとても感じた。それから、「母子福祉センターを知らない人の割合」も、ここには書いているが、これは対象の方の人数のパーセンテージを挙げてもらっているが、そもそも、ひとり親ではない方も知らないのと、いざ、ひとり親になったというときに困るのではないか。結局、この知らない人の割合は増えているままなのではないかと感じるので、その際は、その下に参考となるように、その他の方の割合も挙げていたほうが比較対象になるかなと感じた。</p>

会 議 録 (案)

会長	<p>時間の制約もあるので、今のは意見として持ち帰って、検討いただきたいと思う。</p>
委員	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">(3) 「元気発進！子どもプラン（第2次計画）」に基づく主な取り組みについて、資料3に基づき事務局より説明</p> </div> <p>私立幼稚園の人材確保について、このたび、このような形で記載してもらったことは、大変うれしいことだと思う。私立幼稚園は私立幼稚園でやってくださいというのが、大体、今までのスタンスだったので、大変感謝している。</p> <p>この3ページに「小規模保育事業」というところが出ているが、小規模保育事業を実施している幼稚園などは、保育士確保でやはり大変苦労されているところがあるが、ここの4ページの「保育士等の確保」は、小規模保育事業の保育士確保にも該当するのか。</p>
事務局	<p>4ページに書いている「保育士の確保」、「保育士・保育所支援センター」は、今年の4月に立ち上げ、いわゆる潜在保育士という方、保育士の資格を持っているけれども保育所とか幼稚園に勤めてない方と保育所のマッチングを図って、潜在保育士さんを活用したいという事業である。対象としては小規模も含まれており、要望さえあればマッチングを図りたいと思っている。</p>
委員	<p>要望さえあれば。</p>
事務局	<p>小規模から、うちのセンターのほうにご要望いただければ、そちらのほうに人材を配置させていただくことなる。</p>
委員	<p>続いて、6ページにあります「親子通園事業」について、また質問させてもらいたい。前回、子ども・子育て会議で質問させていただいた中で、就労家庭でないと、障害児を抱えている家庭の子は保育所に通えない。障害児を自分の家庭の中で見るために就労する余裕がないという家庭に関しては、もう私立幼稚園しか通えないと言われたことが過去にある。それで、ここを見ていると、改善されたのかなと、私は、解釈したのですが、どうか。</p>
事務局	<p>委員がおっしゃる親子通園事業の理解と、実際に行っている親子通園事業は少し相違があるかと思う。こちらの親子通園事業は、基本的に在宅の方方で、月に8回、大体3時間程度、親子で保育所に通園していただいて、子どもたちの様子、保護者の不安などに、保育士と一緒に保育をする中で応えていく。そ</p>

会 議 録 (案)

委員	<p>の次に、児童にとって適切な期間への移行支援を行っています。</p> <p>最後の一文である。「適切な機関への移行支援を実施します」。はどのようなことか。</p>
事務局	<p>こここのところは、保護者が幼稚園を希望している、保育所を希望している、養育機関を希望しているというところで、そこにあっせんするわけではなくて、保護者の方々の希望に沿うように伴走型の支援を行っているということと、あなたは幼稚園に行きなさい、あなたは保育所に行きなさいと振り分けることはしない。あくまでも保護者のお考えに寄り添っていくというスタンスである。</p>
委員	<p>変わったのか、変わっていないのか。</p>
事務局	<p>変わってない。親子通園事業が始まる時からこのスタンスでやっている。</p>
委員	<p>今年もまた言い続ける。</p>
委員	<p>3ページで確認です。先ほど評価のところではなかったもので、その時の言葉の捉えと、私が今から確認することが違って戸惑いがあったらすみません。「小規模保育の設置促進・認定こども園整備事業」のところ。2行目に、「認定こども園の普及を図る」ということがある。やはり、北九州は計画上でも認定こども園を普及するのだというスタンスであると捉えていいのか。それから、「施設整備を行う幼稚園等」、「小規模保育事業を実施する幼稚園等」の、この「等」の中に認可保育園が入っているということでもいいのか。</p>
事務局	<p>認定こども園の普及について、そこに書いておりましたが、教育・保育施設の利用状況は、保育所とか幼稚園の利用状況、それから利用者のニーズ、希望、それから事業者の意向、そういったものを踏まえた上で普及をしていくということにしている。支援事業計画の中でも、26園という目標を掲げているところである。それから、「幼稚園等」というところなのだが、予算的なところでは、こちらは認定こども園と幼稚園というのを考えている。ただ、別のところで認可外保育施設とかいったものも掲げており、全体としては、もちろん保育所も入ることになっている。予算ごとに書いてあるので、分かれるのだが、全体的にはこういった施設から小規模をする場合でも含まれるという作りになっている。</p>

会 議 録 (案)

委員	<p>この言葉をそのまま素直に受け取りますと、認定こども園は幼稚園からの移行を求めている、あるいは、小規模保育事業も幼稚園のほうから認定施設になるためのためには予算がついているというふうに見て取れる。また、認可外は認可保育園へ支援するとか、認可外や事業所内保育に対しては運営費等を助成するということもあり、結局、認可保育所が移行する、あるいは、何かをずるといったときには予算はついてないかのように見える。この「等」という文言がやはり分かりにくいものなので、今言われたように、「認定こども園の普及を図る」と書いてあるが、これも、あくまでも計画ですから、希望、希望、希望と書いてあるが、需給のバランスがとれない場合は、この計画も変わるということもあるということ。それでいいのか。今言われたように、この読み取りだけすると、幼稚園が移行することに対する予算、認可外が移行することへの予算、それから、事業所内保育施設が移行する、あるいは施設整備をするための予算というふうに見て取れるのが、ちょっとどうなのかなという思いがしたので確認した次第である。ただ、予備保育士の費用補助だとか、保育士確保のために市がとてもお金を使って私たちの援助、支援をしてくれていることに対しては、しっかり載っているの、これは感謝申している。</p>
事務局	<div data-bbox="456 1088 1347 1207" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"><p>(4) 北九州市子ども・子育て会議認定こども園・確認部会委員の改選について、資料4に基づき事務局より説明</p></div> <p>【閉会】16:00</p>